

あ お や げ ん え も ん さ く
栗生屋源右衛門作

ち くり ん し ち け ん じん も ん も つ こ が た ひ ら じ ょ く
竹林七賢人文木瓜形平卓

種 別	小松市指定文化財 工芸品
指定年月日	平成13年11月3日
所在地	小松市立博物館

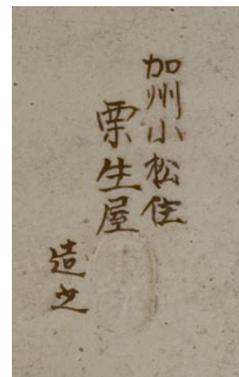
再興九谷の名工・栗生屋源右衛門は、寛政元年（1789）、小松に生まれ、幼少から父の源兵衛より楽焼の技法を学んだ。父亡き後は、若杉窯で本多貞吉に師事して陶技を修得。その後、大聖寺藩吉田屋窯に招かれたが、その技術の高さにより加賀藩小松に呼び戻された。小松に帰ってからも蓮代寺窯、小野窯、松山窯などの開窯と技術指導に活躍し、門下から松屋菊三郎、九谷庄三など、のちの九谷焼指導者を輩出した。

源右衛門が小松で作った一種独特の楽焼は、複雑な工程を踏む色絵楽焼で、「小松焼」「栗生屋焼」とも称される。棚や卓台など木工品を思わせる作品が多い。

そうした作品のなかでも本品は、源右衛門の作風を最も顕著に表わしているとともに、最高傑作の一つに数えられる。

とくに、源右衛門の作品には書銘品が少ないが、本品の天板裏には「加州小松住栗生屋造之」と記され、源右衛門の号である「東郊」のとうこう小判印が捺してある。作者としても会心の作であったと思われる。

木工の卓に似せた複雑な細工の軟陶は栗生屋独特の優品であり、天板の竹林七賢人の図をはじめ、山水、花鳥の優れた絵付と、小紋、唐草の精緻な装飾は、再興九谷を代表するものである。源右衛門の高度な技法を知る貴重な作品である。



天板裏の銘